

経営比較分析表（平成28年度決算）

岐阜県地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院 下呂病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	26	-	ド透未訓	救臨へ輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	19,594	非該当	7：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

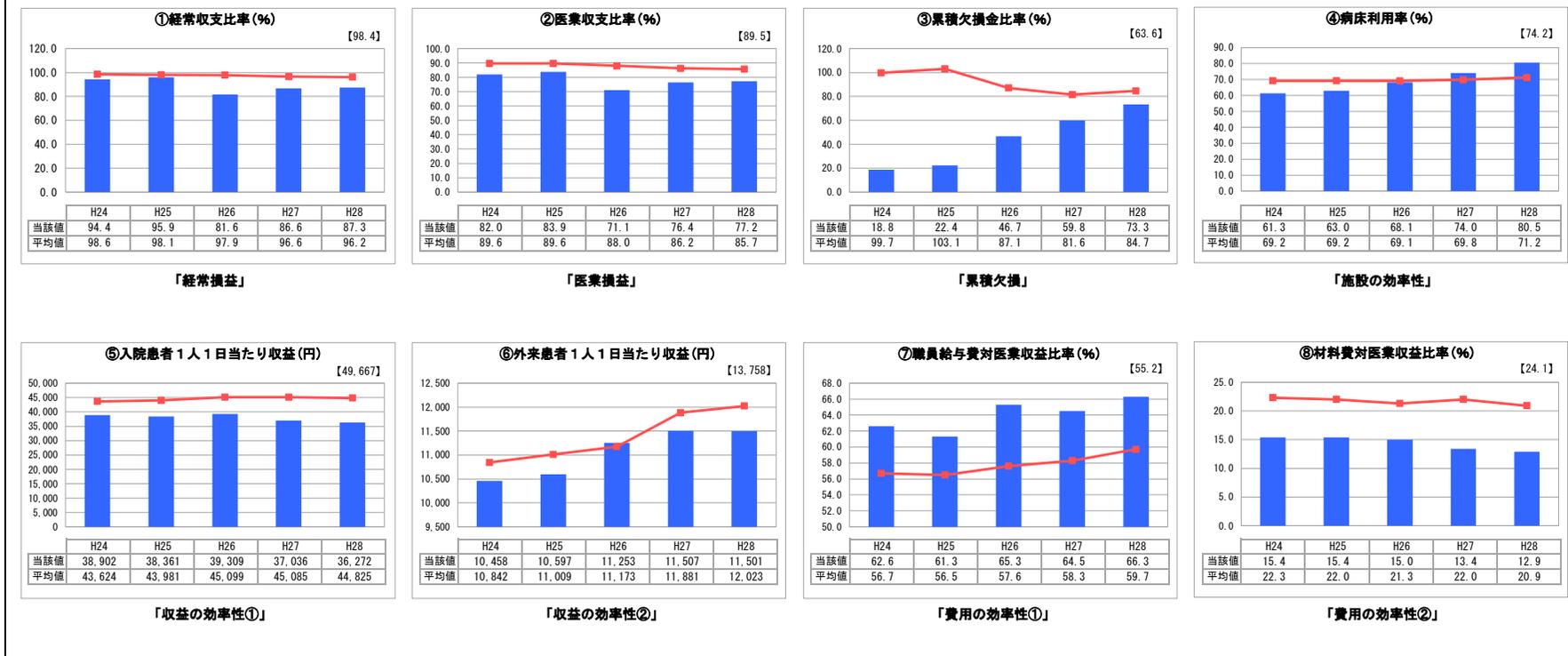
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
206	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	206
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般＋療養）
206	-	206

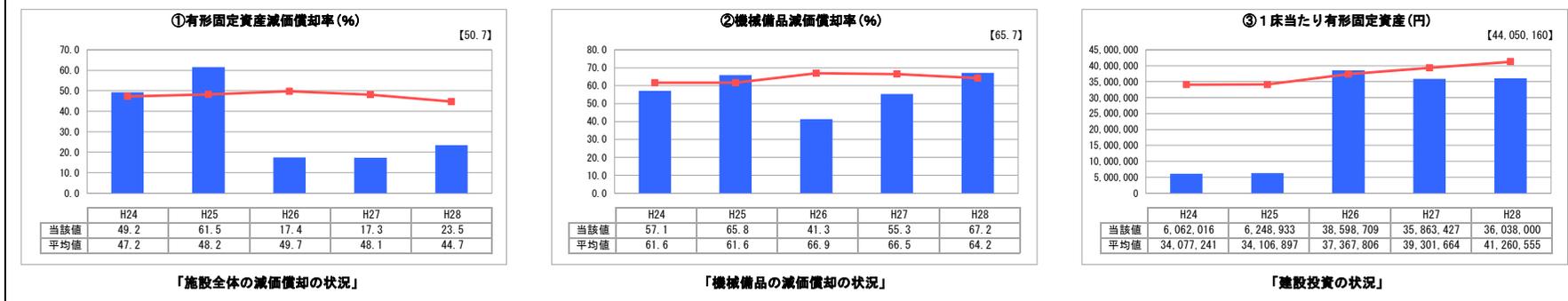
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

I 地域において担っている役割

飛騨南部地域の中核病院として、「生活の場の医療」を県立病院の立場で提供していきます。

＜具体的内容＞

- 1 不採算・特殊部門（救急医療、小児医療、周産期医療、災害医療等）に関わる医療の提供
- 2 急性期医療の提供と地域包括ケア病棟及び回復期病棟を有効的に活用した在宅復帰支援

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

●経常収支比率、医療収支比率
平均値を下回っているものの、前年度と比較し、経常収支比率は0.7ポイント、医療収支比率は0.8ポイント上昇しています。

●病床利用率
前年度と比較して6.5ポイント上昇し、80%を超えました。病院全体として効率的な病床管理、運用を行ってまいります。

●入院・外来患者 1人1日当たり収益、職員給与対医療収益比率

1人1日当たり収益は平均値を下回り、職員給与対医療収益比率は平均値を上回っています。引き続き医療収益確保と合わせて経費削減に取り組みます。

●材料費対医療収益比率
平均値以下であり、特に問題はありません。

2. 老朽化の状況について

平成24年度から平成25年度にかけて病院建設に取り組み、平成26年5月に新築移転していることから、当面建物更新の必要はありませんが、医療機器等については計画的な更新、整備が必要です。

- 有形固定資産減価償却率
平成26年度以降平均値を下回っています。
- 機械備品減価償却率
平均値と比較して3.0ポイント程度高くなっていきます。補助金や病院事業債を活用するなど、計画的な機器の更新・整備を引き続き行っていきます。
- 1床当たり有形固定資産
平均値を下回っています。

全体総括

平成26年5月に新築移転し、飛騨南部地域の中核病院としての機能を充実するとともに、地元開業医や近隣の医療機関との連携により地域の医療需要に 대응しています。

新病院の経営状況は病院建設等投資的経費の増大により、大変厳しい状況が続いています。特に建設による資金の減少、減価償却費の負担や長期借入金の元利償還の発生など多大な費用が発生し、総収支は赤字が続いています。

診療報酬の改定内容も見極めつつ、急性期病棟、地域包括ケア病棟、回復期病棟の3つの機能を連携させながら、急性期的治療と在宅復帰支援の充実を図るとともに、医療収益の増加に向け引き続き常勤医師の確保等により一層の経営努力を続けていきます。